

ネットで支え合う親・子・地域・学校

－ ASP型コミュニケーションサイトを使った情報・感動・行動の共有 －

岐阜県本巣市立糸貫中学校 教諭 若曾根 隆彦

wakataka@sannet.ne.jp

キーワード：ASP型コミュニケーションサイト、掲示板、第3世代携帯電話、家庭、地域

1. 実践のねらい

生徒が、周囲の多様な情報や価値観に翻弄され自分のめざす方向を見失ってしまわないために、家庭や地域と学校が「情報・行動・意識」の連携を図っていくことが大切である。そのために、本校では、授業や行事等を積極的に公開して学校の様子を知らせたり、懇談会を重ねて地域や保護者の声を学校経営に反映させたりしようとしてきた。しかしながら、仕事などに時間がとられてしまい、生徒の教育には関心があっても、学校と接触する機会が減ってきている保護者もかなりいる。そんな保護者の方々にも、学校情報を素早く伝え、保護者の方の願いを吸い上げ、生徒の健全育成のためにどうしていったらよいかともに考える機会を作ることは学校運営上意義のあることだと考えた。

そこで、整備されたネットワークシステムと本校の文化である『ネットワークで育まれた心』を生かして、生徒の活動情報を素早く地域、家庭に発信しその評価を得たり、教師や生徒、保護者との意見交流を重ねたりしようと考えた。そのために、即応した情報発信が簡単にでき、堅固なシステムによって安全に意見交流できるASP型コミュニケーションサイトを利用することにした。これによって、中学生に、地域や保護者からも自分たちは支えられていることを認識させ、自律した生活をおくる一助になることを願った。また、保護者や地域の方と学校が一体となって生徒の健全育成を図ろうと考えた。

なお、本実践は「平成17年度Eスクエア・エボリューション学校企画」で実施し、継続して取り組んでいるものである。

2. ねらい実現のための手だて

2.1 家庭・地域と学校との密着を図る掲示板活用

家庭・地域と学校との距離を縮め、温かみのある交流が実現できるように、段階的にASP型コミュニケーションサイトの掲示板を活用しようと考えた。

昨年度は発信する内容や交流目的を「①情報→②感動→③願い→④行動」の共有」という4段階で考え、それにそって情報発信や意見交流してきた。しかし、今年度は、発信する情報の意図及びこのASP型コミュニケーションサイト掲示板がもつ特性から、「①情報→②心情→③願い」の共有」という3段階にとらえなおした。それは、感動や行動の共有は、対面性のある活動をもとにどの段階でも生まれてくるものであり、特に願いや行動を共有するには、対面性のある会議等を通して、情報を多面的な見方で考察しながらめざす方向の共通理解を図る営みが欠かせないことがわかってきたからである。

(1) 第1段階：情報の共有

保護者や地域の方から、生徒の頑張りに対して激励や賞賛の言葉が得られる情報を、コミュニケーションサイト掲示板に掲載する。それらの情報を得た保護者や地域の方は、その感想等を『糸中生への応援メッセージ』としてコメントする。これによって、生徒に“自分たちは見守られているんだ。いろんな人から認められているんだ”という意識が持てるようにした。また、不審者情報等を掲載し、地域や家庭も生徒を見守っていこうとする意識化を図った。

(2) 第2段階：心情の共有

生徒や保護者に問題意識をもってもらいたいテーマについて、「事実」とそれに対する「生徒の考え・感想」等を情報発信し、学校側の考えも交えながら意見交流を深めようと考えた。そして、生徒・地域・家庭・学校が、心情を共有しながら一体となって課題に取り組む土壌をつくろうと考えた。

(3) 第3段階：願いの共有

自分たちの学校、地域の学校という意識を醸成するためにも、保護者や地域の方に外部モニターとなっていただき、地域における生徒の様子を評価していただくよう考えた。そして、自分たちも、生徒の健全育成や安心・安全な町づくりに関わっているという自覚のもと、学校経営に対する建設的な意見を発信してもらうことを願った。また、これらの外部モニターを含めた外部評価委員会をつくり、対面性を保証したオフラインでの話し合いを同時に行い、これまでに発信された意見が学校運営や生徒の健全育成に反映できるようにしたいと考えた。

2.2 運用上配慮したこと

(1) 利用者が属するコミュニティを反映したユーザーの設定と権限の明確化

利用者が属するコミュニティを反映したものにし、多様な考え方が得られる場にするために、設定するユーザー

は、コミュニティーを形成している各階層を代表するものにした。また、交流を意義あるものにするために、発信する意見は責任のあるものにしたと考え、ユーザーによる書き込み等の権限を定めた。

(2) 安全性・確実性・即時性の保証

Webページによる交流を深めるには、新鮮な情報を素早く確実に発信し、安心して交流できることが欠かせない。そこで、本校では、次の理由からWebページによる情報発信の手段として、ホームページやブログではなく、ASP型コミュニケーションサイトを利用することにした。

- ・ ホームページと比べて、専門的な知識を必要としないので、職員誰もが素早く情報発信できる(即時性)
- ・ ホームページやブログと比べて、情報のセキュリティの信頼性が高く、堅固なシステムが背景にあるので、安心して掲示板による意見交流ができる。(安全性)
- ・ ブログと比べて、活動の足跡をきちんと残しておくことができる(確実性)
- ・ メンテナンスがしっかりしている。

(3) ASP型コミュニケーションサイト活用のねらいの周知

ASP型コミュニケーションサイト活用のねらいを地域や保護者に理解してもらうために次のことを行ってきた。

- ・ 携帯版緊急メールによってコミュニケーションサイトに新たな情報が掲載されたことを知らせ、意見を募集した。
- ・ 学校便りなどに、掲示板に書き込まれた保護者や地域の方の意見を紹介した。
- ・ PTAの会議や地域の方との懇談会で、ASP型コミュニケーションサイト活用の意図を説明し、応援メッセージの書き込みをお願いした。

3. 実践例

(1) 情報共有の実践

例年のように『校外学習レポート』『部活動中体連速報』『体育大会レポート』についてコミュニケーションサイト掲示板を利用して、地域に情報発信した。さらに、今年度は新たに、『合唱祭』『生徒会重点活動の取り組み』『ボランティア活動』などの様子も生徒自らが発信した。合唱祭を参観した保護者からは、「幸せな気持ちにしてくれたみんなに感謝します」「涙するくらい合唱祭に取り組んできたのだなと思うと、こちらまで、胸が熱くなりました。私もスタンディングオベーションしたい気持ちでした」という激励メッセージをいただいた。具体的な生徒の姿を発信することで、学校理解を得るよう努めてきた。

その他、来年度入学する小学校6年生やその保護者を対象にした学校生活についての質問コーナーを設けたり、授業参観後に生徒の頑張っている様子について保護者からコメントをいただいたりもした。

(2) 心情共有の実践

インターネット上の“ある掲示板”を使つての誹謗中傷記事が目立つようになり、実際に学年をまたがってのいがみ合いや他校生とのトラブルに発展しそうになる事件が起きた。そこで、緊急の生徒集会を行ったり、学級での話し合いやモラル教育を行ったりしたが、同時に、そこででた生徒の考えや気持ちを綴った記事をコミュニケーションサイト掲示板に掲載し、保護者や地域からの意見を求めそれを生徒に紹介していった。家庭でもこのことが話題になり、これらの指導の結果、誹謗中傷記事は沈静化していった。

また、ボランティア活動の様子やそれに参加した生徒の感想を生徒会が発信し、それに対する意見を協力していただいた施設の所員の方からいただいた。生徒は、自分たちの活動が評価され感謝されていることを知って誇りとさらなる意欲をもつことができた。

4. 成果と課題

本校の生徒は、様々なボランティア活動や地域活動に積極的に参加しており、実際の自分たちの活動の姿で糸貫中学校を理解してもらうことができている。その中で、ASP型コミュニケーションサイトを通して、姿だけではわからない心情や気持ちを地域に発信してきたことは、より深く学校を理解してもらうのに役立っている。また、届いた激励メッセージや感謝の言葉は、生徒の誇りにつながっており、新たな活動意欲を生み出している。

本年度の北海道研修では、第3世代携帯電話を生徒に貸与することができなかった。そのため、生徒自らがその場で直ちに活動記録を発信することができなかった。(活動の記録は、現地では教師が発信し、帰校後は生徒が自分たちの撮影した静止画を中心に発信した。)速報性が薄れたことと記事数が減少したことから、例年9600件以上あったアクセス数が6400件までに減少してしまった。速報性を維持する手だてを考える必要がある。

地域や保護者からのメッセージが十分得られたとは言いがたい。多くの方からコメントをいただくことによって、生徒は、地域から常に温かく見守られていることを実感できる。そのためにも、ASP型コミュニケーションサイト活用のねらいをさらに周知していきたい。来年度は、「第3段階 願いの共有」の実現を図るために、外部モニターを募る予定である。これを契機にして活発な意見交流ができる場にしたい。そして、外部モニターの方には、地域における生徒の様子を積極的に評価していただき、それらを、外部評価委員会を通した学校運営に反映させるシステムを構築したい。